

令和6年度 学校評価計画

島根県立出雲農林高等学校

※ アンケート評価 A：そう思う B:ややそう思う C:あまり思わない D:思わない E:わからない

評価 A：十分満足である B:ほぼ満足である C:改善の必要がある

	今年度の重点目標	具体的取組事項	評価指標(到達したい状況・状態)	評価基準		結果 ()は問題番号 数字は%	校内 評価	反省及び次年度への課題等	改善案	学校評議員 評価
総務部	広報活動の強化	ホームページの随時更新と共に、より見やすく分かりやすい情報発信に努め、広報活動の充実を図る。	保護者(14)・教員(1)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A	B	保(14)85.8 教(1)97.2	B	●各部署(学科、分掌、部活動等)での記事作成はされていたと思うが、掲載回数にかなりの差があったり、掲載のタイミングが遅れたりする時もあったため、記事の更新については課題があった。	○全教員がそれぞれの分掌等において、各行事の記事作成(HP更新)が実施できるようにするため、HP講習会の時期や方法を検討し、よりスムーズに対応できるようにしていきたい。	B
				90%以上	80%以上					
	PTA活動の活性化	①PTA総会・評議員会・農業祭等での参加を呼びかけ、PTA諸活動を通じて、保護者と教職員との相互理解と連携を深める。 ②定期的なPTA会報の発行(4・7・2月下旬)と、ホームページの更新等により、保護者への情報発信に努める。	保護者(19)・教員(2)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A	B	保(19)76.6 教(2)89.2	B	●PTA総会時に進路関係の資料を配布したり、生産物の販売も行ったりしながら出席者数の増を図っているが、なかなか伸びなかった。 ●農業祭時、PTAのお店を継続して出店いただいた。運営に携わる人数不足を解消するため、役員以外の会員にも応援を募るなど、呼びかけの幅を広げたことにより参加者を増やすことができた。 ●例年通り年3回のPTA会報(第3回は2月下旬発行予定)は発行できた。PDF化してHPに掲載することも実施できたが、掲載の案内が十分でなかった。	○カラー版のPTA会報は好評であるので、次年度も年3回の発行を行い、生徒の活躍の様子を中心に情報発信を続け、HPへの掲載もタイミングよく行ってきたい。	B
				90%以上	80%以上					
教務部	自己管理能力の育成	保護者、担任、生徒部との連携や、生徒への啓発をととして欠席と遅刻のさらなる減少を目指す。	生徒(21)・保護者(8)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A	B	生(21)91.4 保(8)89.7	A	●遅刻しない生徒がほとんどであるが、遅刻回数の多い生徒もあり、のべ総数としては遅刻が目立つ。	○遅刻の多い生徒に対し、生徒指導部や当該クラス担任と連携をとりながら粘り強く指導を行う。遅刻しないことがなぜ大切なのかということを理解させる必要がある。	A
				90%以上	80%以上					
	キャリアプランニングの推進	漢字検定や文章読解・作成能力検定、英語検定、農業技術検定の全生徒受験に加え、各科専門資格への挑戦をととして生徒のキャリアアップに努める。	生徒(12)アンケートにおいて1、2年次は今年度取得した資格数が1つ以上の生徒の割合 3年次は3年間で3つ以上の生徒の割合	A	B	生(12) 3年 48.0 2年 56.0 1年 43.6	C	●1、2年生については、目標に届いていないものの、昨年度より数値が上昇している。	○資格取得や検定合格自体を目指す指導は各科目等でしっかりと行われているが、それを目指す意義やメリットについて、生徒自身に意識させる働きかけが必要である。	C
				90%以上	80%以上					
生徒指導部	校内外で積極的な挨拶の実践	生徒会、風紀委員、教員と挨拶運動週間を実施。全校集会、学年会などで呼びかける。	生徒(18)・教員(3)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A	B	生(18)88.4 教(3)62.9	C	●校内外で挨拶をする生徒は多いが、自らすすんで挨拶をする生徒は少ないと感じている。 ●毎朝の立番を廃止し、1、2学期のあいさつ運動週間を実施したが、大きな声で挨拶ができない生徒もいる。	○朝の立ち番指導を定期的 to 実施する ○全校集会での風紀委員会による呼びかけ	C
				90%以上	80%以上					
	自転車の交通マナーの強化	全校集会、学年会、自転車小屋などでマナーや命を守ることの呼びかけ、学期に1回の街頭指導において連携しながら注意・指導をしていく。	生徒(20)・教員(4)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A	B	生(20)97.5 教(4)54.3	C	●全校集会や学期指導においては、交通ルールを守る呼びかけは行ってきたが、軽微な事故が多く発生した。通学指導も学期ごとに行ったが、交通自治委員の活動を増やすことができなかった。	○外部機関による交通講話の実施 ○地域団体と連携した街頭指導の実施	C
				80%以上	70%以上					
進路指導部	生徒の進路実現を達成するための体系的な指導体制の構築	求人状況の速やかな公開、面接指導・小論文指導(3年)、進路ガイダンス・進路希望調査・キャリア・パスポートを効果的に行う。	生徒(36)・教員(6)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A	B	生(36)91.6 教(6)97.1	A	●各進路プログラムが計画通り実施できた。 ●前年度の改善策であったChromeBookを利用した進路資料の提供が少しずつ進んだ。	○進路情報の提供やホームページの更新を速やかに行う。	A
				80%以上	70%以上					
	本校の特色を生かした進路決定	インターンシップ、プロジェクト発表、農場当番、意見発表、鑑定競技などの農業高校ならではの取り組みが、面接ノート(3年)、キャリア・パスポート・に適切に記録されるよう促す。	保護者(12)・生徒(30)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A	B	保(12)92.6 生(30)90.9	A	●生徒・保護者・教員間での共通認識を持ちたい。 ●進路は情報を元に相談しながら生徒自身が判断して決定するものだという自覚を促す。	○生徒の取り組みを定期的に振り返る機会を設けて、進路との繋がりを意識させる。	A
				80%以上	70%以上					
健康相談部	保健関連行事の適切な運営	健康診断や健康教育、安全点検や環境整備作業など、生徒の健康管理や良好な教育環境の維持に資する各種行事を適切に行う。	保護者(16)・教員(7,8)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A	B	保(16)84.5 教(7)100 教(8)100	B	●関係機関や校内の協力を得て、必要な保健関連行事を遂行することができた。教育環境を維持するために、点検や清掃活動に力を入れ、今ある設備を維持できるよう取り組んで行く必要がある。	○環境整備に関わる活動については、校内環境の情報を得ながら、必要箇所等を把握するなど、状況に応じた計画を立てて実施していく。	B
				90%以上	80%以上					
	教育相談活動の充実	関係教職員と連携を図りながらSCの活用や教育相談委員会・ケース会議等を適宜開催し、生徒の情報共有や支援に努める。	教員(9)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A	B	教(9)91.2	A	●問題を抱える生徒に対して、早期の把握、情報共有、協議を通じて支援につなげることができるよう努めた。 ●経過観察、継続支援の必要があるケースが多いため、次年度に向け引き継いでいく必要がある。	○関係教員、学年部等の協力を得ながら、情報の早期把握、共有化を図り、連携した支援体制を継続していく。	A
				90%以上	80%以上					

令和6年度 学校評価計画

島根県立出雲農林高等学校

※ アンケート評価 A：そう思う B:ややそう思う C:あまり思わない D:思わない E:わからない

評価 A：十分満足である B:ほぼ満足である C:改善の必要がある

	今年度の重点目標	具体的取組事項	評価指標(到達したい状況・状態)	評価基準		結果 ()は問題番号 数字は%	校内 評価	反省及び次年度への課題等	改善案	学校評議員 評価
図書部	読書意欲を高める環境づくりに努める	①生徒・教職員による選書を行い、魅力的な蔵書を構築する。 ②生徒図書委員会の主体的な活動を支えとともに、イベント開催や日常的な展示等により読書活動を推進する。	一冊以上借りた生徒の割合	A	B	50%	B	●年度の前半に行われた3階渡り廊下の工事により、アクセスしづらかったにも関わらず、一冊以上借りた生徒の割合は昨年に比べると上昇した(電子図書館の利用を含む)。「図書館の設備や雰囲気は利用しやすいですか」という生徒用のアンケート項目では、9割以上の生徒が利用しやすいと回答していることから、今年度は自主的な利用が増えたのではないかと。図書館利用が日課となっている生徒もみられるようになった。今後も、生徒が本に親しめるよう、図書館の環境整備や魅力的な本の選書等を継続していく。	○これまで同様、1学期中に1年生全クラスに図書館オリエンテーションを行い、図書館利用の導入とする。また、利用しやすい図書館を目指し、生徒の意見を取り入れて、魅力的な選書や季節の展示を行っていく。	B
				55%以上	50%以上					
図書部	教育活動への支援の充実を図る	①各教科・学年会と連携して、図書館を活用した授業を支援する。 ②生徒が興味を広げ探求を深められるよう、多様な資料を提供するとともに、調べ学習のスキルアップ支援など、情報活用能力の育成に資する。	生徒(40)・教員(10)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A	B	生(40)93.8 教(10)100	A	●昨年度導入したホワイトボードやプロジェクターを各教科の授業等でご活用いただいた。また、今年度はマインドマップなどの思考ツールを用いた演習を複数のクラスで試みた。今後はより計画的な実施を検討したい。次年度以降も、生徒の探究活動がより充実したものとなるよう、資料提供や思考ツールの紹介など、情報活用能力の育成に力を入れていく必要がある。	○各クラスのHR(図書館利用)の時間を活用して探究学習に必要な資料の検索方法を紹介したり、生徒のニーズに応じた資料の提供を行っていく。また、学校図書館を授業等で活用して頂けるよう、各教科の授業内容と関連のある資料の選定や書籍の紹介に力を入れる。	A
				90%以上	80%以上					
寮務部	意欲的な学習態度の育成	通常時60分、試験期間90分の学習時間の確保と、個に適した学習環境(食堂、舎室)を提供する。	生徒(28)・保護者(17)・教員(11)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A	B	生(28)86.5 保(17)100 教(11)56.3	B	●試験期間中以外での学習が不十分な生徒がいた。	○資格取得をよびかけ、目標を持って学習させていく。	B
				80%以上	70%以上					
	快適な寮生活を目指して、寮内の環境美化の推進	①週番業務により責任感を持った寮生活を送るよう指導する。 ②自治意識を持ち、互いに注意し合える雰囲気をつくる。	生徒(29)・保護者(18)・教員(12)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A	B	生(29)93.4 保(18)81.8 教(12)82.4	A	●分担した場所の清掃はきちんとおこなっていた。洗濯機周辺にモノが散乱するときもあった。	○清掃については継続していきた。 ○洗濯機周辺の片付けをよびかけていく。	A
				80%以上	70%以上					
農場部	研究活動の推進	①実験・実習を積極的に展開する。 ②生徒主体の探究的学習を推進する。	生徒(3,31)・保護者(1)・教員(13,14)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A	B	生(3)94.6 生(31)94.1 保(1)98.5 教(13)94.3 教(14)97.1	A	●地域や企業の連携を含め充実した実験・実習を展開している	○今後も継続していきたい	A
				80%以上	60%以上					
	専門科目関連への進路実現	①資格試験への積極的な挑戦と全員が1つ以上の資格目指す。 ②自営学科(農林大学校等)への進学指導を強化する。	生徒(10)・保護者(12)・教員(15)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A	B	生(10)82.6 保(12)92.6 教(15)97.1	A	●アグリマイスター(プラチナ・ゴールド)の取得者数の増加目指して取り組みたい。	○FFJ検定の充実を図り中級の取得率向上を図る	A
				80%以上	60%以上					
植物科学科	社会に通じる人間力の育成	①時間厳守・積極的にあいさつを行う。 ②場面にふさわしい態度・行動がとれるよう指導する。	生徒(18,19)・保護者(9,10)・教員(16,17)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A	B	生(18)98.4 生(19)96.8 保(9)83.1 保(10)88.3 教(16)85.7 教(17)90.7	A	●自ら挨拶をする生徒数が多くまた、学校生活においても生活態度や行動について良好な生徒が多い。教員が見本となり積極的に挨拶をすることが大事であると感じる。	○引き続き気づいたときにその場で指導していくことが大切である。	A
				90%以上	80%以上					
	自ら学ぶ姿勢の育成	①「農業と環境」「課題研究」等、授業の充実を図る。 ②資格取得に向けての意識付け指導を行う。	生徒(3,7,12)・保護者(2,23)・教員(18,19)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A	B	生(3)94.6 生(7)97.4 生(12) 3年 48.0 2年 56.0 1年 43.6 保(2)92.1 保(23)69.7 教(18)89.5 教(19)90.0	B	●生徒自ら主体的に学ぶ姿勢において概ね良好である。また、資格を1つでも多く取得することの重要性を伝えることが大切である。	○引き続き指導をしていく。	B
				90%以上	80%以上					
環境科学科	社会に通じる人間力の育成	①時間厳守を徹底させる。 ②気持ちの良いあいさつや言葉づかい、服装の指導を行う。	生徒(18,19)・保護者(9,10)・教員(20,21)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A	B	生(18)98.4 生(19)96.8 保(9)83.1 保(10)88.3 教(20)94.1 教(21)94.4	A	●社会人としてふさわしい基本的な生活態度や学ぶ姿勢を身につけられるように指導していく。	○引き続き指導をしていく。	A
				90%以上	80%以上					
	自ら学ぶ姿勢の育成	①課題研究授業を充実させる。 ②資格取得に向けての指導を強化する。	生徒(3,7,12)・保護者(2,23)・教員(22,23)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A	B	生(3)94.6 生(7)97.4 生(12) 3年 48.0 2年 56.0 1年 43.6 保(2)92.1 保(23)69.7 教(22)94.4 教(23)95.0	B	●資格を取得することで生徒に達成感を感じさせてやるように、さらに指導体制を整えていく。	○引き続き指導をしていく。	B
				90%以上	80%以上					

令和6年度 学校評価計画

島根県立出雲農林高等学校

※ アンケート評価 A：そう思う B:ややそう思う C:あまり思わない D:思わない E:わからない

評価 A：十分満足である B:ほぼ満足である C:改善の必要がある

	今年度の重点目標	具体的取組事項	評価指標(到達したい状況・状態)	評価基準		結果 ()は問題番号 数字は%	校内 評価	反省及び次年度への課題等	改善案	学校評議員 評価
				A	B					
食 品 科 学 科	社会に通じる人間力の育成	①時間厳守・あいさつを徹底させる。 ②場面にふさわしい態度・行動がとれるよう指導する。	生徒(18,19)・保護者(9,10)・教員(24,25)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A	B	生(18)98.4 生(19)96.8 保(9)83.1 保(10)88.3 教(24)94.7 教(25)85.0	B	●生徒の自己評価は高いが、保護者・教員からの肯定的な評価との開きが見られるので、特に大人の視点から見て、場面に応じた適切な態度や行動がとれるよう、生徒の意識を高めたい。	○生徒の意識向上のためには、教員が不十分さに気づいた時に見逃さず指導するように、引き続き心掛けたい。	A
	自ら学ぶ姿勢の育成	「農業と環境」「課題研究」を中心に問題解決型学習の充実を図り、専門教科への主体性と探究心を育てる。	生徒(3,7)・保護者(2)・教員(26)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A	B	生(3)94.6 生(7)97.4 保(2)92.1 教(26)94.7	A	●生徒・保護者・教員、三者ともに良好な評価結果であった。但し、保護者・教員の評価が昨年度より下がっているので、定期的な指導体制の点検と改善を検討したい。	○多様な教材を活用しながら、生徒たちがつねに新鮮な興味・関心を持ち続けて、主体的に授業に臨めるよう、工夫しながら指導していきたい。	A
動 物 科 学 科	社会に通じる人間力の育成	①時間厳守・あいさつを徹底させる。 ②場面にふさわしい態度・行動がとれるよう指導する。	生徒(18,19)・保護者(9,10)・教員(27,28)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A	B	生(18)98.4 生(19)96.8 保(9)83.1 保(10)88.3 教(27)100 教(28)95.5	A	●2つの取り組みに対する評価は概ね良好ではあった。しかし、場面にふさわしい態度・行動(服装等も含め)に対して科全体を見渡すとまだまだであると感じる。そのため、継続的に指導、声かけを科の教員が中心となって行っていきたい。	○引き続き、朝終礼や授業、農場当番等の際に、場面にふさわしい態度・行動（服装等も含め）であるのか声かけを実施し、社会で通用する生徒を育成できるように継続的に指導していく。	A
	自ら学ぶ姿勢の育成	①「農業と環境」「課題研究」を中心に問題解決型学習の充実を図り、専門教科への主体性と探究心を育てる。 ②家庭学習を利用し、専門知識の定着を図る	生徒(3,7)・保護者(2)・教員(29)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A	B	生(3)94.6 生(7)97.4 保(2)92.1 教(29)100	A	●2つの取り組みに対する評価はともに良好であった。その中でも家庭学習をより充実させる取り組みが必要である。	○専門教科でも家庭学習を充実させていくために、科の教員に定期的に声かけを実施し、課題作成を促していく。	A
一 年 部	基本的生活習慣・学習習慣の確立	①クラス、授業、学年集会等で物事に見通しをもって取り組むことについての指導を行う。 ②マナトレを中心とした学習へ意欲的に取り組むように指導する。	生徒(5,6,7,18,19)・保護者(9,10,21)・教員(30,31)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A	B	生(5)94.6 生(6)96.3 生(7)97.4 生(18)98.4 生(19)96.8 保(9)83.1 保(10)88.3 保(21)64.9 教(30)77.8 教(31)80.8	B	●生徒の評価は高いが、保護者、教員の評価は低い。生徒と保護者・教員との感覚にギャップがある。 ●マナトレに取り組むモチベーションが低いようなので、取り組み方の改善を図る。	○学校で学んだ事がその場限りではなく、実生活においても家庭やそのほかの場所で実践することができるよう言葉かけをしていく。 ○マナトレの振り返りを行い、ウィークポイントの強化、つまずきの箇所があれば放課後等の時間を使って指導していく。	B
	地域へ視野を広げようと行動する探究心を持った生徒の育成	専門科目に意欲的に取り組むよう指導する。	教員(32,33)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A	B	教(32)100 教(33)84.6	B	●日頃からの学科間、学年間での連携体制を見直し、強化を図る。	○学科の特性もあるので、全員履修の「農業と環境」などを通して、主体的に動ける指導を継続的に行う。	B
二 年 部	社会に通じる人間力とコミュニケーション力を持った生徒を育成する	相手の立場に立って考え、場に応じた挨拶や言葉遣い、活動や態度、発言や発表ができるように指導する。	生徒(18,19)・保護者(9,10)・教員(34)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A	B	生(18)98.4 生(19)96.8 保(9)83.1 教(34)96.2	A	●普段の実習、当番だけでなく、インターンシップ、農業祭、県外視察研修旅行等、様々な行事を通じて、多くの方々と交流しコミュニケーション力を高めることができた。	○引き続き多くの活動を通じながら、多くの方とコミュニケーションをとる中で、相手を気持ちに配慮し、場に応じたふるまいができる力を育成していく。	A
	自ら学ぶ姿勢で志を持ち、社会に貢献できる生徒を育成する。	①進路実現に向けて主体的に資格取得や学力向上に向けて学習できるように指導する。 ②課題研究、インターンシップ等を通して、身につけた知識技能が社会に役立つことを実感できるよう指導を充実させる。	生徒(12)保護者(23)・教員(35,36)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A	B	生(12) 3年 48.0 2年 56.0 1年 43.6 保(23)69.7 教(35)96.0 教(36)100	A	●多くの生徒にとって、資格取得を目指し様々な試験に挑戦することがモチベーションとなり学習意欲を高める好循環を作ることができている。また、課題研究等を通じ学んだこと実践に移すことも生徒が学習成果を実感できる場となっている。一方で、資格取得にあまり積極的でない生徒もいたのは課題である。	○資格取得によって進路選択の幅が広がることあるので、資格取得のメリット等をしっかり説明し、意欲的に受験する生徒を増やしていきたい。また、課題研究等の活動は引き続き充実したものとしていく。	A
三 年 部	最高学年として他の模範となる生活態度を実践し、自己管理能力を身につけた生徒の育成	授業、HR、学校行事等の場面で随時指導する。 ①状況に応じた言葉遣いやあいさつができるように指導する。 ②より良い学習環境の中で意欲的に学べるように黒板消しや教室美化を徹底する。	生徒(18,19,21,22)・保護者(9,10,16)・教員(37,38)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A	B	生(18)98.4 生(19)96.8 保(9)83.1 保(10)88.3 保(16)84.5 教(37)100 教(38)100	A	●最高学年として、また社会人としての自覚を醸成する指導を心がけたことが高い評価につながった。学年会では生徒の情報交換を密に行い、科の枠にとらわれることなく生徒の指導に当たる子田ができたことも良かった。最終学年となり学校行事や授業の公開への保護者の来校が増えたことも大きい。	○継続的に取り組む。また、学習環境の充実のために個人の基本的生活習慣の確立、整理整頓指導も続けていく。	A
	進路実現に向け、情報の収集や分析を主体的に行い、進路決定ができる生徒の育成	①週に1度学年会を実施し、生徒の情報交換を充実させる。 ②困り感を抱えている生徒の支援について、健康相談部からの情報提供とアドバイスを受けるなど連携していく。	生徒(30)・教員(39,40)アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合	A	B	生(30)90.9 教(39)100 教(40)96.0	A	●定期的に学年会を行い学年部と進路指導部、健康相談部との情報共有し、必要に応じて外部機関と連携しながら指導できたことが高い評価につながったと考えられる。また、学校全体で進路指導している体制が生徒にも良い影響を与えた。	○進路情報や生徒の様子を進路指導部、健康相談部、学年会、学校全体で共有して、生徒の進路実現を支援していく。	A

令和6年度 学校評価計画

島根県立出雲農林高等学校

※ アンケート評価 A：そう思う B:ややそう思う C:あまり思わない D:思わない E:わからない

評価 A：十分満足である B:ほぼ満足である C:改善の必要がある

	今年度の重点目標	具体的取組事項	評価指標(到達したい状況・状態)	評価基準		結果 ()は問題番号 数字は%	校内 評価	反省及び次年度への課題等	改善案	学校評議員 評価
				A	B					
事務部	学校の快適かつ安全な教育環境の整備に努める。	学校教育環境の整備においては緊急性・必要性を考慮して実施するとともに、年間を通じて適切な施設・設備の維持管理に努める。	生徒(41,42)・保護者(15,16)アンケートにおいて、「A」「B」と回答した割合	90%以上	80%以上	生(41)91.8 生(42)80.8 保(15)91.0 保(16)84.5	C	●校舎や機械設備等の老朽化に加え、ここ数年は猛暑や大雨等による被害が続いている。快適で安全な教育環境を整備するため早急に修繕等を行う必要があるが、予算上の制約もあり、全ての案件に対応することは難しい状況である ●アンケートではおおむね80%以上のよい評価をいただいたものの、「わからない」との回答も多いことから、全体の満足度はもう少し低いのではないかと考える	○緊急性や必要性を考慮し、優先順位をつけて計画的に施設設備の維持管理を行い、安全確保と環境改善に努めるとともに、公費以外の財源確保についても検討していく。	C
全体	グランドデザインの実現	学校生活全体を通して人間力(コミュニケーション力、学力、自己管理能力)を育成するとともに、学習活動においてもICT機器の活用、生徒個々の活躍の場の提供等により、学ぶことに対する意欲(自主性、専門性)を高める。	以下の生徒アンケートにおいて「A」「B」と回答した割合 ・コミュニケーション力(4,18,26) ・学力(5,12,34) ・自己管理能力(20,22) ・自主性(3,8,14,27) ・専門性(5,6,13)	90%以上	80%以上	生(4)68.9 生(18)98.4 生(26)81.2 生(5)94.6 生(12) 48.0 3年 56.0 2年 43.6 1年 94.0 生(20)97.5 生(22)97.1 生(3)94.6 生(8)30.4 生(14)91.7 生(27)92.9 生(5)94.6 生(6)96.3 生(13)82.0	A	●グランドデザインの実現を示す5つの指標の各アンケート結果で、90%以上のAB評価を受けた項目が半数以上となった指標が4つのため評価Aとした。	○さらに社会に通ずる人間力を育成し、学ぶ意欲を高めるために、特に以下のような点について工夫・改善していきたい。 ・授業において生徒自身の発言やペア学習、グループ学習が活発におこなえるような確かな基礎学力の育成。 ・資格取得のための家庭学習時間の確保と計画的な取組の推進。	A
	出雲農林高校満足度の向上	教職員一丸となり魅力ある学校づくりを推進する。	生徒(1)・保護者(26)アンケートにおいて「学校生活に満足している」に対して「A」「B」と回答した割合	90%以上	80%以上	生(1)88.7 保(26)91.7	B	約1割の生徒が学校生活に満足していないという結果である。記述意見から分析すると、校内施設設備の老朽化、校則、農場当番に原因があるのではないかとと思われる。改善に向けて取り組めるところは取り組みつつも、難しいところは生徒に丁寧な説明をして安全第一に学校生活を進めていきたい。	○生徒からの声にもしっかりと耳を傾け、改善できるところは改善していきながら充実した高校生活を送ることができるように体制を構築していきたい。	B